

多治見高校トピックス ～南アフリカの研究者を招いての 原風景マップを使った環境教育～

今年度から、多治見高校は岐阜県の地域課題探求型学習（ふるさと教育）の推進校になっており、学校を挙げて様々な取り組みを行っています。7月23日（月）には南アフリカのノースウエスト大学から研究者の方々が来校され、本校1年生の生物基礎「生態系の保全」の単元にて、どのように自然を保全すればよいか議論する授業を行いました。この授業では、多治見高校生も南アフリカの方も事前に原風景マップを描いてきて、グループを作って、それを英語で説明し、どのような環境を目指して保全活動をするべきなのか考えました。



Dr. Donovan 先生の南アフリカについてのミニ講義



グループでの原風景マップの説明



グループでの原風景マップの説明



英語で南アフリカの環境について質問

<生徒の感想>

今日の授業が外国の方と英語で話す初めての機会でした。英語は得意ではないけれど、知っている単語を使ってなんとか自分の意見を伝えることができうれしかったです。ただ、まだまだうまく表現できないことばかりだったので、もっと英語を勉強したいです。アフリカの方はイモムシを食べることを知って、外国の食文化にも興味が湧きました。

全く英語が分からず大変だったので、もっと英語を勉強しようと思いました。南アフリカの方の原風景と私たちの原風景は異なる箇所がたくさんありました。例えば、日本では家の周りに井戸や川があって水がすぐに利用できるけれど、南アフリカは家から離れた場所に井戸があり、大きいバケツを持ってくみに行く聞いて驚きました。また、Alinaさんとお話をする中で日本もアフリカも森林伐採をして、住宅地にしていることが分かりました。この授業では、環境保全の大切さも学びました。

英語をいざ話そうとしても頭で考えていることが口からうまくでませんでした。今後は機会があるごとに、(日本語でも英語でも) 勇気をもって自分から話すことを心がけて他人に自分の意見を言えるようなメンタルを身につけたいです。私たちの班ではフランスからの留学生ミウさんと、それぞれの原風景の違いについて話せてよかったです。

今日の授業では、原風景や自然環境に対する自分の考えを英語で伝えられ、また、いろいろな人の考えを聞いたことがとても良かったです。一方で、南アフリカの一部の地域には水道がないと聞いて、その理由が分からなかったり、そもそも南アフリカの方々がなぜ英語を話しているのか疑問に思ったりしたのですが、質問できなかったため、英語力と質問する勇気を身につけたいと思いました。

なお、本取り組みは日本学術振興会二国間交流事業「日本から学ぶ南アフリカの教員の専門性向上のための有用昆虫利用の在来知識活用の研究、代表野中健一」のプログラムとしても実施されました。

担当：佐賀達矢